

第2四半期のAIGに帰属する純利益は27億ドル、希薄化後1株当たり利益は1.84ドルと公表

- 第2四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は17億ドル、1株当たりでは1.12ドル
- 2013年8月1日、取締役会は額面が1株当たり2.50ドルのAIG普通株式（「AIG普通株式」）の第2四半期配当金、1株当たり0.10ドルを発表するとともに、計10億ドルのAIG普通株式買戻権を承認。これらは、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（「ILFC」）の売却を想定に入れずに承認
- 全分野で堅調な業績をあげたことから、AIGに帰属する税引き後営業損益は7期連続で黒字を達成
- 保険事業の営業利益は前年同期比21%増加して23億ドル
- 負債管理の成果により、第2四半期に債務を9.31億ドル削減
- 2013年8月1日現在、ILFC売却取引は未了

2013年8月1日（ニューヨーク発）：アメリカン・インターナショナル・グループ・インク（ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG）（「AIG」）は、本日、2013年第2四半期のAIGに帰属する純利益が27億ドルになったことを公表しました。これに対して、前年同期の2012年第2四半期は23億ドルでした。AIGに帰属する税引き後営業利益は、2013年第2四半期、前年同期とも17億ドルでした。

2013年第2四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益は、前年同期の1.33ドルに対し、1.84ドルになりました。AIGに帰属する1株当たり税引き後営業利益は、前年同期の0.96ドルに対し、1.12ドルでした。このように、2013年第2四半期にはAIGに帰属する純利益が同税引き後営業利益を上回りましたが、その主な原因は、キャピタル・ロスの繰越しによる繰延税金資産に関連する評価性引当金が減算されたことにあります。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは、以下のように述べました。「第2四半期の堅調な業績は、弊社の事業が広範に世界展開している強みを物語っていると考えます。また、これらの業績は、事業基盤が盤石であることを浮き彫りにすると同時に、組織全般で顧客の期待に応えるだけでなく、期待以上のサービスを提供することに注力してきた成果である、と自負しております。

弊社は、以前よりも力強く、よりシンプルで、重点分野をさらに絞り込み、新たなビジョンを掲げ、かつ将来に向けて活力溢れる新生AIGとして、前進を続けながら基盤固めに引き続き力を注いでいることに満足しています。第2四半期の利益は、中核事業である保険事業を引き続き重視しつつ、資本管理に継続的に取り組んできた成果を示しています。損害保険事業、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業、モーゲージ保証保険事業が揃って高い業績を記録しましたが、その中でも第2四半期には、AIGプロパティ・カジュアリティにおける引受の改善と継続的な事業構成の変更、AIGライフ・アンド・リタイアメントにおける規律に則ったスプレッド管理、高い投資パフォーマンス、ならびに第2四半期の正味既経過保険料の約半分が2008年以降の契約によるものであったというモーゲージ保証保険事業の継続的な改善における強みが認められました。

一体化した業務運営に力を注いできたことが、実を結びつつあります。今後、全社的な連携強化のメリットが顕在化し、高水準だった第2四半期の利益を上回る好業績を達成できると引き続き考えています。」

資本および流動性

- 2013年6月30日現在、AIGの株主資本は合計で975億ドルとなりました。
- その他の包括利益（損失）累計額（AOCI）を除く普通株式1株当たりブック・バリューは、

前年同期比 11%増の 61.25 ドルになりました。一方、AOCI を含む 1 株当たりブック・バリューは、前年同期比 2%減の 66.02 ドルにとどまりました。これは、最近の金利上昇が未実現投資利益に及ぼした影響を反映したものです。

- 2013 年第 2 四半期における AIG プロパティ・カジュアリティおよび AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの子会社から最終親会社である AIG への現金配当および借入金返済は、合計 13 億ドルでした。
- 2013 年 6 月 30 日現在の親会社 AIG の流動資金は約 147 億ドルでした。そのうち 110 億ドルは、現金、短期投資、および抵当権が設定されていない満期固定証券でした。
- 2013 年第 2 四半期には、負債管理によって債務を 9.31 億ドル削減しました。これには、元本合計が 7.5 億ドルにのぼるハイブリッド証券の償還も含まれています。

税引き後営業利益 (単位：百万米ドル)

	6 月 30 日までの 3 ヶ月間	
	2013 年	2012 年
保険事業：		
AIG プロパティ・カジュアリティ	\$1,085	\$936
AIG ライフ・アンド・リタイヤメント	1,151	933
モーゲージ保証保険 (その他の事業に計上)	73	43
保険事業合計	2,309	1,912
直接投資	591	434
グローバル・キャピタル・マーケット	175	(25)
AIA の公正価値の増減 (2012 年の実現益を含む)	-	(493)
金融受け皿会社 (ML III) の公正価値の増加	-	1,306
支払利息	(353)	(392)
全社費用	(253)	(224)
その他	(1)	(54)
税引き前営業利益	2,468	2,464
法人税経費	(786)	(779)
その他非支配的持分	(27)	(7)
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$1,655	\$1,678

AIG プロパティ・カジュアリティ

AIG プロパティ・カジュアリティの 2013 年第 2 四半期の営業利益は、前年同期が 9.36 億ドルの利益であったのに対し、11 億ドルとなりました。異常災害損失および前年の動向を除く保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオが前年同期の 98.3 から 96.5 に低下したことが示すように、2013 年第 2 四半期には引受による業績が改善しました。正味投資利益は、オルタナティブ投資の好調なパフォーマンスと公正価値オプションを適用した有価証券における評価益の恩恵を享受しました。資本管理に対する継続的な注力の一環として、AIG プロパティ・カジュアリティは 2013 年第 2 四半期に親会社 AIG に 7.92 億ドルの現金配当を支払いました。

2013 年第 2 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 102.4 であったのに対し、102.6 となりました。2013 年第 2 四半期の業績には、3.16 億ドルの異常災害損失に加えて、主に 1.42 億ドルのハリケーン・サンディ関連の支払準備金増加に伴う正味マイナス 1.54 億ドルの前年の影響（保険料調整考慮後）が算入されています。かかるハリケーン・サンディ関連の追加的損失は、少数の既存の複雑な大口法人契約の保険金に関するものでした。2013 年保険事故年度第 2 四半期の調整済み損害率は、高付加価値事業への継続的シフト、リスク選択の強化、保険料率引き上げにより、前年同期の 64.8 から 61.9 に改善しました。2013 年第 2 四半期の取得費率は、前年同期比 0.4 ポイント高の 20.0 になりました。一般営業費率は、0.7 ポイント高の 14.6 になりました。これは、2013 年第 2 四半期の人件費増加が、貸倒損失とインフラ計画費用の減少によって相殺されたためでした。正味既経過保険料の減少も、一般営業費率上昇の一因になりました。

2013年第2四半期の正味収入保険料は、保険料率の引き上げと的を絞り込んだ増収策の成果により、前年同期比1.8%増加し93億ドルとなりました。超過損害出再保険料の認識時期変更および為替の影響を除くと、2013年第2四半期の正味収入保険料は前年同期比で4.0%増加しました。

同じくこれら2項目の影響を除いたコマーシャル・インシュアランス事業の正味収入保険料は、前年同期比で3.6%増加しました。これは、主に、新契約の増加と保険料率の上昇によるものです。上記2項目の影響を除いたコンシューマー・インシュアランス事業の正味収入保険料は、前年同期比で4.7%増加しました。コンシューマー・インシュアランス事業では、成長中の高付加価値事業に引き続き軸足を置きながら、マルチ販売チャネル戦略の一環として、ダイレクト・マーケティングを拡大させました。

コマーシャル・インシュアランス事業の2013年第2四半期の営業利益は5.35億ドル、コンバインド・レシオは101.7となりました。これに対して、前年同期の営業利益は7.45億ドル、コンバインド・レシオは99.3でした。2013保険事故年度第2四半期の調整済み損害率は、前年同期の67.3から62.2に改善しました。その主な理由は、高付加価値事業へのシフト、リスク選択の強化、保険料率引き上げにあります。2013年第2四半期の取得費率は16.3で、前年同期比で0.9ポイント低下しました。こちらは、事業構成の変更と保険関連の評価の変動によるものです。2013年第2四半期の一般営業費率は、前年同期比1.4ポイント高の12.8になりました。その主な原因は、正味既経過保険料の減少と人件費増加が、貸倒損失の減少によって相殺されたことにあります。

コンシューマー・インシュアランス事業の2013年第2四半期の営業利益は9,100万ドル、コンバインド・レシオは100.1となりました。これに対して、2012年第2四半期の営業利益は1.92億ドル、コンバインド・レシオは97.7でした。2013保険事故年度第2四半期の調整済み損害率は、前年同期が59.1であったのに対して、60.2となりました。2013年第2四半期の取得費率は、前年同期比2.4ポイント高の25.9でした。これは、コンシューマー・インシュアランス事業構成の継続的変更とダイレクト・マーケティングへの投資によるものです。一般営業費率は、前年同期比0.3ポイント上昇し15.3になりました。その主な原因は、正味既経過保険料の減少と人件費増加ですが、インフラ計画費用の減少によって一部相殺されたことにあります。

その他損害保険事業の税引き前営業利益は、前年同期比4.6億ドル増の4.59億ドルになりました。これは、正味投資利益の2.68億ドル改善と解約による前年の悪影響の軽減が主な原因です。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2013年第2四半期の営業利益は、前年同期の9.33億ドルから23%増の12億ドルになりました。これには、変額年金および個人向けミューチュアルファンドの堅調な販売、手数料収入の着実な伸び、効果的なスプレッド管理、正味投資利益の増加が反映されています。低金利環境に加えて、解約料課金期間が終了した保有契約の増加に起因する解約増加を背景に、定額年金から資金が引き出されたほか、団体リタイヤメント事業でも資金が引き出されたにも関わらず、AIG ライフ・アンド・リタイヤメント全体の正味の資金フローは好転しました。またAIG ライフ・アンド・リタイヤメントでは、現行の保証利率管理策が効果をあげ、第2四半期には収益性が改善しました。

正味投資利益は、前年同期比5%増の26億ドルになりました。これは、オルタナティブ投資の収益率が前年同期を上回った恩恵を享受したものです。ただし、かかる収益率改善は、中国人民保険集団(PICC)への投資で8,400万ドルの評価損が発生したことで、一部相殺されました。2013年第2四半期の基礎投資利回りは、前年同期の5.5%に対し、5.35%にとどまりました。これは、過去12ヵ月間の資産再投資利回りが、ポートフォリオ全体の加重平均利回りを下回ったことを反映したものです。ただし、商品の目標利率と市況に沿い規律に則った新契約および更新契約の保証利率管理により、定額年金事業と団体リタイヤメント事業双方の基礎的な正味投資スプレッドが拡大しました。その一方、キャピタル・ロス繰越しを有効活用するため、引き続き債券投資ポートフォリオで多額の税務上の益金を実現しました。

2013年第2四半期末現在の運用資産は、前年同期の2,680億ドルから10%増加して2,940億ドルになりました。正味の資金フローと勘定評価額も、前年同期を大きく上回りました。運用資産の増加にはステーブル・バリュー・ラップ契約の動向も寄与しましたが、その増加分は、最近の金利上昇の影響でAIG ライフ・アンド・リタイヤメントの売却可能有価証券の評価益が減少して、一部帳消しになりました。

2013年第2四半期の収入保険料および預かり資産は、前年同期の54億ドルと比較して24%増の計68億ドルになりました。これを牽引したのが、個人向けの変額年金とミューチュアルファンドの販売でした。リタイヤメント・インカム・ソリューション事業と個人向けミューチュアルファンド事業の収入保険料および預かり資産は、それぞれ前年同期比で65%と96%増加しました。個人向け変額年金の販売高は、22億ドルに達しました。

リテール・セグメントの2013年第2四半期の営業利益は、前年同期から25%増加して6.7億ドルとなりました。これは、勘定の評価額増加に伴う手数料収入の増加と、金利に敏感な商品に対する現行の積極的なスプレッド管理戦略によるものです。再編したリテール・セグメントの販売システムは引き続き高い業績をあげ、堅調な販売高と正味プラスの資金フローを獲得しました。オルタナティブ投資利益の増加も、営業利益の増加に貢献しました。

機関投資家セグメントの2013年第2四半期の営業利益は、前年同期から21%増加して4.81億ドルとなりました。団体リタイヤメント事業とインスティテューショナル・マーケッツ事業それぞれが着実な寄与を果たしましたが、増益の主な原動力になったのは、正味投資利益の増加と積極的なスプレッド管理でした。

2013年第2四半期にAIG ライフ・アンド・リタイヤメントが親会社AIGに供与した現金配当、借入金返済等の流動資金は、約5.45億ドルでした。

モーゲージ保証保険

AIGのモーゲージ保証保険事業であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーションは、前年同期の4,300万ドルの営業利益に対して、2013年第2四半期には7,300万ドルの営業利益を計上しました。2013年第2四半期業績には、再保険のコミュテーション、決済、準備金の取崩しに伴う正味で4,900万ドルのプラスの影響も算入されています。

2013年第2四半期の正味収入保険料は、前年同期の2.12億ドルに対して、2.75億ドルとなりました。米国内の第一抵当権付保険契約の新規引受け（保険付き融資元本）は、前年同期の85億ドルと比較して62%増の138億ドルになりました。その主な理由は、モーゲージのオリジネーションの増加、販売チャネルの追加および拡大でした。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは755、平均借入金比率は92%でした。

その他の事業

AIGのその他の事業（モーゲージ保証保険を除く）の2013年第2四半期の営業利益は、前年同期の6.39億ドルに対して、1.26億ドルにとどまりました。これには、2012年第4四半期に取得した資産担保証券の一種である債務担保証券（CDO）の評価益に主に起因する直接投資の増益が算入されています。前年同期の業績には、金融受け皿会社のMaiden Lane III LLCおよびAIAグループ・リミテッドにおける持分に関する税引き前正味評価益8.13億ドルが算入されています。

フォーム10-Q提出時期に関する注記

2013年8月1日に米国内国歳入庁が出した一般通達を受けて、弊社は、2013年第2四半期に計上する計画だった繰延税金評価引当金の金額を修正しました。決算報告、カンファレンス・コールのスライド、補足財務情報は、いずれも公表時に適宜更新しています。通常は、決算報告時にフォー

ム 10-Q を提出していますが、第 2 四半期のフォーム 10-Q は来週早々に公表し、米国証券取引委員会 (SEC) が運営している情報開示システムの EDGAR システムで提出する予定です。

カンファレンス・コール

AIG は、2013 年 8 月 2 日金曜日午前 8 時 (米東部時間) より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com>) でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール (カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます)、決算報告、補足財務情報には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。ILFC に対する AIG 持分の現金化 (これには最大で 90% の ILFC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。)、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、貯蓄貸付持株会社、システム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、2013 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」) およびパート II 項目 1A (「リスク要因」)、2013 年 3 月 31 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書のパート I 項目 2 (「MD&A」)、ならびに 2012 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書のパート I 項目 1A (「リスク要因」) およびパート II 項目 7 (「MD&A」) でとりあげられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非 GAAP 型の財務数値」が用いられています。GAAP とは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIG が表示する非 GAAP 型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいは AIG のウェブサイト (www.aig.com) の投資家向けセクションで閲覧可能な 2013 年第 2 四半期補足財務情報には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益 (損失) 累計額 (AOCI) を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AIG の 1 株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、売却可能ポートフォ

リオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な非 GAAP 型の指標だと考えます。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AOCI を除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIG は、継続事業の基本的な収益性と、AIG および事業セグメントのトレンドをより良く理解することができると考えるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）は、AIG に帰属する純利益（損失）から以下の項目を除きます。これは、非継続事業の利益（損失）、事業売却による純損失（利益）、事業売却による利益、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税金に係る調整、「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金（和解金）、繰延税金評価引当金（減算）、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの債券の公正価値の変動、給付積立金の増減と繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値（VOBA）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスに関連する販売促進資産（SIA）の価値、負債の償却損（益）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス、また正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、割引購入の利益です。「過去の危機に関する問題」には、2008 年 9 月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告として AIG が負担した弁護士費用が含まれます。AIG に帰属する純利益の AIG に帰属する税引き後営業利益への調整については、12 ページを参照してください。

AIG プロパティ・カジュアリティの営業利益（損失）には、事業利益（損失）、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、その他（収入）費用、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、割引購入の利益は含まれません。事業利益（損失）は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIG プロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料 100 ドルに対する請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが 100 を下回る場合は事業利益、100 を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率は、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外した損害率です。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ 1,000 万ドルを超えました。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオは、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したコンバインド・レシオです。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの営業利益（損失）は、純利益（損失）から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動（支払利息を除く）、正味実現（利益）損失、給付積立金の変動、正味実現（利益）損失に関連する DAC、VOBA、SIA です。これらの変動が大きな項目を除くと、継続事業の業績が強調されて投資家は基本的な事業の業績をより良く評価できるため、営業利益（損失）は有益だと考えます。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの収入保険料、預かり資産には、生命保険収入保険料、および年金契約、保証投資契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他営業利益（損失）は、上述の過去の危機に関する問題に関連する特定の法定責任準備金（訴訟和解金）、債務消滅における（利益）損失、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、事業および資産の売却の純（利益）損失、事業売却の利益です。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。このほか、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc. の追加情報については www.aig.com | You Tube : www.youtube.com/aig | Twitter : @AIG_LatestNews | LinkedIn : <http://www.linkedin.com/company/aig> を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc.傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ (www.aig.com) を参照されたい。全ての商品およびサービスは AIG, Inc.傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われない。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2013年	2012年	増減(%)	2013年	2012年	増減(%)
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：						
正味収入保険料	\$ 9,263	\$ 9,095	1.8 %	\$ 17,700	\$ 17,915	(1.2) %
正味既経過保険料	8,347	8,820	(5.4)	16,905	17,508	(3.4)
請求および請求調整費用	5,679	6,079	(6.6)	11,092	11,988	(7.5)
取得費用	1,671	1,733	(3.6)	3,359	3,490	(3.8)
一般営業費用	1,222	1,225	(0.2)	2,448	2,427	0.9
事業利益 (損失)	(225)	(217)	(3.7)	6	(397)	-
正味投資利益	1,310	1,153	13.6	2,668	2,376	12.3
営業利益	1,085	936	15.9	2,674	1,979	35.1
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	73	23	217.4	85	(112)	-
その他の利益	10	2	400.0	13	4	225.0
税引き前利益	\$ 1,168	\$ 961	21.5	\$ 2,772	\$ 1,871	48.2
損害率	68.0	68.9		65.6	68.5	
取得費率	20.0	19.6		19.9	19.9	
一般営業費率	14.6	13.9		14.5	13.9	
コンバインド・レシオ	102.6	102.4		100.0	102.3	
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：						
収入保険料の売上	\$ 649	\$ 632	2.7	\$ 1,269	\$ 1,246	1.8
保険証券発行手数料	623	567	9.9	1,238	1,151	7.6
正味投資利益	2,637	2,521	4.6	5,514	5,406	2.0
顧問報酬およびその他の利益	419	312	34.3	812	616	31.8
収入合計	4,328	4,032	7.3	8,833	8,419	4.9
給付および費用	3,177	3,099	2.5	6,288	6,175	1.8
営業利益	1,151	933	23.4	2,545	2,244	13.4
訴訟和解金	359	-	-	467	-	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く	(69)	70	-	(98)	51	-
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA	(1,152)	(552)	(108.7)	(1,211)	(516)	(134.7)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	1,430	326	338.7	1,586	(140)	-
税引き前利益	\$ 1,719	\$ 777	121.2	\$ 3,289	\$ 1,639	100.7
その他の事業、営業利益 (損失)	199	682	(70.8)	47	3,010	(98.4)
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前 税引き前利益 (損失)	146	(55)	-	(355)	2,264	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	124	(61)	-	211	356	(40.7)
営業利益 (損失) 関連の会社間連結・消去調整	27	(89)	-	53	(61)	-
営業外利益 (損失) (正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を含む) 関連の会社間連結・消去調整(a)	(37)	136	-	9	66	(86.4)
継続事業の税引き前利益	3,147	1,669	88.6	5,979	6,135	(2.5)
タックス・エクスペンス (税額控除)	422	(491)	-	1,116	590	89.2
継続事業の純利益 (損失)	2,725	2,160	26.2	4,863	5,545	(12.3)
非継続事業の利益、税引き後	33	179	(81.6)	126	243	(48.1)
純利益	2,758	2,339	17.9	4,989	5,788	(13.8)
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の高い受益権	-	-	-	-	208	-
その他	27	7	285.7	52	40	30.0
非支配的持分に帰属する純利益合計	27	7	285.7	52	248	(79.0)
AIG に帰属する純利益	\$ 2,731	\$ 2,332	17.1 %	\$ 4,937	\$ 5,540	(10.9) %

財務ハイライト (続き)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2013年	2012年	増減(%)	2013年	2012年	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 2,731	\$ 2,332	17.1 %	\$ 4,937	\$ 5,540	(10.9) %
AIG に帰属する税引き後営業利益の調整 (税引き後の値)						
非継続事業の利益	(33)	(179)	81.6	(126)	(243)	48.1
事業売却の純損失	31	-	-	31	2	NM
不確実な税務ポジションおよびその他の税金の調整	64	331	(80.7)	690	331	108.5
過去の危機に関する問題に関連する訴訟損失引当金 (和解金)	(257)	473	-	(321)	477	-
繰延税金資産評価引当金減算	(752)	(1,283)	41.4	(1,538)	(1,576)	2.4
生前給付債務をヘッジするための有価証券の公正価値の変動	45	(45)	-	64	(33)	-
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・(ゲイン) ロスに関連する DAC、VOBA、SIA	835	359	132.6	889	336	164.6
負債の償却損	25	6	316.7	246	6	NM
正味実現キャピタル・(ゲイン) ロス	(1,034)	(302)	(242.4)	(1,235)	(103)	NM
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、正味実現キャピタル・ロスを除く	-	(14)	-	-	(13)	-
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ <u>1,655</u>	\$ <u>1,678</u>	(1.4)	\$ <u>3,637</u>	\$ <u>4,724</u>	(23.0)
普通株式 1 株当たり利益 :						
基本						
継続事業の利益	\$ 1.83	\$ 1.23	48.8	\$ 3.26	\$ 2.92	11.6
非継続事業の利益	<u>0.02</u>	<u>0.10</u>	(80.0)	<u>0.08</u>	<u>0.13</u>	(38.5)
AIG に帰属する純利益	\$ <u>1.85</u>	\$ <u>1.33</u>	39.1	\$ <u>3.34</u>	\$ <u>3.05</u>	9.5
希薄化後 :						
継続事業の利益	\$ <u>1.82</u>	\$ <u>1.23</u>	48.0	\$ 3.25	\$ 2.92	11.3
非継続事業の利益	<u>0.02</u>	<u>0.10</u>	(80.0)	<u>0.08</u>	<u>0.13</u>	(38.5)
AIG に帰属する純利益	\$ <u>1.84</u>	\$ <u>1.33</u>	38.3	\$ <u>3.33</u>	\$ <u>3.05</u>	9.2
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$ 1.12	\$ 0.96	16.7 %	\$ 2.46	\$ 2.60	(5.4)
加重平均発行済み株式数:						
基本 :	1,476.5	1,756.7		1,476.5	1,816.3	
希薄化後 :	1,482.2	1,756.7		1,479.5	1,816.4	
1 株当たりブック・バリュー(b)				\$ 66.02	\$ 60.58	9.0
その他の包括利益累計額を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー (c)				\$ 61.25	\$ 55.30	10.8 %
株主資本利益率 (d)	11.1%	9.0%		10.0%	10.7%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率(e)	12.3%	9.8%		11.2%	11.6%	
株主資本利益率—税引き後営業利益 (f)	7.4%	7.0%		8.4%	9.9%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式数で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 株主資本合計を発行済み株式で割ったものを示しています。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。